

ギャラリー

今年の4月、毎年行われているアジアサーキット最終戦のダンロップ国際を観戦するために、伊奈町の茨城ゴルフ倶楽部に友人と二人で出かけた。

高萩を午前5時30分に出発すると7時には着いてしまう。改めて常磐自動車道の開通に感謝するものだ。

まず、誰もいない練習場に行き、すでに配置についている係員達と話をした。昨日までの熱戦の様子、あるいは、今後自分もプレーをするかも知れないこのコースの特徴などを聞き出したりしているうちに、第1組スタートの選手が姿を現した。さっそくその選手の脇に陣取り、じつりとプロの打球を観察する。そうこうしているうちに、次々と選手達が集まり出して、思い思いに練習を始めた。テレビでよく見る選手もいれば名前さえ聞いたことのない選手もいる。

ふと気がつくやうに相当のギャラリーが選手達を取り囲んでいる。それぞれ自分のお目当ての選手の後方で、じつとその練習に熱い視線を送る。きっとギャラリーの頭の中では、自分との比較をし、懸命に自分の欠点を矯正しようとしているに違いない。「へえ～凄いや球を打つな」「○○プロは飛ばないって言うけどとんでもないよ」などと小声でささやくのが聞こえてくる。ゆっくりとしたリズムから繰り出されるショットは、快音を残し飛んで行く。

去年の同大会3日目を観戦した時に、ゲーム終了後の練習グリーンを何げなく覗いてみると、杉原プロが黙々とパターの練習をしていた。1mから2mのショートパットを同じリズムで何回も何回もはじいている。その真剣な練習態度にプロの迫力を感じた。

1時間ぐらい続いた練習を終えると、我々に向けて、今まで練習に使っていたボールを差し出しこう言った。「ちょっと傷もんやけどやろうか」独特の関西弁で突然言われたのと、有名プロからもらえる嬉しさで、一瞬言葉につまったが、すぐ「ありがとうございます」と礼を言いボールをいただいた。思わず「明日は頑張ってください」と声援すると、軽くうなずきそのままクラブハウスへと戻っていった。使用ボールはKASCOの7番、勿論「T・Sugihara」の名前入りである。そのボールは、私が以前月例競技で優勝した時にいただいたカップとともに大事にしまっている。

スターティングホールでは、テレビで馴染みのアナウン

サーが、選手の名前、戦歴を紹介している。拍手で迎えるギャラリーに軽い会釈で応えた選手は、次々にプロの打球を披露して足早にコースに出ていった。

何組かの選手達を見送ったあと、内田繁、滝安史、T・マインズの組が登場した。観戦にあたり、ギャラリーの多い最終組は避けようとしていた我々は、この組について回ることになった。

内田繁は、経験豊かな実力プレーヤーであり、特にショートプレーを見たかった。滝安史は、タイトルこそ取ってはいないものの、ゴルフ界きっての飛ばし屋である。とても興味ある組合せであった。

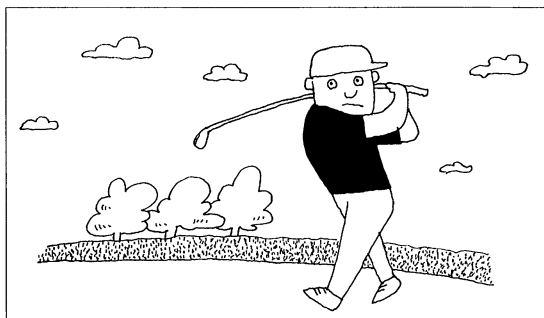
しかし、今大会不振の彼等にはギャラリーもほとんどつかない。我々2人を除けばせいぜい5、6人である。それも身内の者であると思われる。後でキャディーに聞いたが、滝安史の姉夫婦と友人らしい。

淡々とプレーが続けられる中、時折、遠くに聞こえる大歓声もこの組には何の関係もなかった。

途中、コースの交錯するところで他の選手のプレーぶりを観戦しながらも、結局最後までついて回った。午後から降り出した雨が選手のプレーを躊躇させ、仲々スコアが伸びない。優勝にはほど遠いところで懸命にプレーを続ける選手を見て、友達と言った。「家で待ってる家族のために、黙々と働く俺達サラリーマンと同じだな」なるほどと私もうなずいた。

まだ他の選手達のプレーは続けられていたが、雨具を用意しなかった体はすっかり冷えこみ、早いけれども帰ることになった。帰りの車の中で、どちらからともなく「また来年も見に来ようか」と言って帰途についた。

(高萩市総務部庶務課主幹 大和田通明)



【新着資料案内】【新着資料案内】

この資料は、昭和60年4月中に行政資料室に到着した主なものです。ご利用下さい。
行政資料室 本庁舎地下1階 TEL 0292-21-8111(内線2668)

| 行政資料名 | 発行所(者) | 行政資料名 | 発行所(者) |
|------------------------|-----------|------------------------|---------------|
| 中央省庁関係 | | | |
| 昭和59年増加図書年報 | 総務庁 | 果樹生産流通等基本調査結果 | 流通園芸課 |
| 昭和59年10月1日現在推計人口 | 〃 | 昭和60年度植物防疫事業 | 改良普及課 |
| 昭和58年統計調査総覧 | 〃 | 昭和59年度農家生活技術個別課題実験 | 〃 |
| 昭和58年度学校教員統計調査報告書 | 文部省 | 自家製味噌貯蔵場所の環境条件に関する調査研究 | 〃 |
| 昭和58年人口動態統計上巻 | 厚生省 | 昭和60年農作物病虫害防除基準 | 〃 |
| 昭和58年度農家の形態別にみた農家経済 | 農林水産省 | 京浜地域市場の概要と茨城県産青果物の入荷状況 | 東京農産物流通指導センター |
| 昭和58年度物財統計 | 〃 | 昭和58年度企業局水質年報 | 企業局 |
| 昭和58年度農家生計費統計 | 〃 | 昭和59年度教育調査報告書 | 教育庁企画室 |
| 昭和58年度農家資金動態統計 | 〃 | 県内市町村関係 | |
| 昭和58年度林家経済調査報告 | 〃 | 行政資料目録(追録第3号) | 水戸市 |
| 昭和59年度耕種生産構造統計調査結果報告書 | 〃 | 都道府県関係 | |
| 昭和59年耕地及び作付面積統計 | 〃 | 昭和58年度道民経済計算年報 | 北海道統計課 |
| 昭和58年農林水産業生産指数 | 〃 | 昭和58年度北海道法人企業経済調査結果報告書 | 〃 |
| 昭和58年生産農業所得統計 | 〃 | 人口移動報告年報 | 岩手県統計調査課 |
| 昭和58年度工業農作物等の生産費 | 〃 | 昭和59年版みやぎの雇用と賃金 | 宮城県統計課 |
| 東京通産統計年報1983 | 通商産業省 | 昭和59年版市町村民所得統計 | 〃 |
| '84経済統計研究 | 〃 | 昭和58年度企業経営の動向 | 山形県統計調査課 |
| 昭和59年グラフでみる機械工業主要品目の動き | 〃 | 昭和58年度山形県の工業 | 〃 |
| かしこい消費生活へのしおり | 〃 | 昭和59年賃金・労働時間及び雇用の動き | 〃 |
| 昭和58年石油等消費構造統計表 | 〃 | 昭和57年度県民所得推計報告書 | 栃木県統計課 |
| 昭和59年自動車保有車両数 | 運輸省 | 昭和59年毎月労働統計調査特別調査結果の概要 | 〃 |
| 昭和58年港湾統計 | 〃 | 昭和59年度学校保健統計調査報告書 | 〃 |
| 昭和59年版陸運統計要覧 | 〃 | 年齢別人口(昭和59年10月1日現在) | 群馬県統計課 |
| 昭和58年度郵政統計年報 | 郵政省 | 昭和59年移動人口調査結果 | 〃 |
| 茨城県関係 | | 昭和59年度学校保健統計調査結果概要 | 〃 |
| 明日の茨城をつくるために | 広報課 | 統計からみた埼玉県の地位 | 埼玉県統計課 |
| —59年・知事に寄せられた便りに答えて— | 〃 | 埼玉県の輸出産業 | 〃 |
| 茨城県地域防災計画 | 消防防災課 | 昭和58年度物資流通統計調査結果報告 | 千葉県統計課 |
| 震災応急対策計画編 | (茨城県防災会議) | 昭和59年度学校保健統計調査結果概要 | 東京都人口統計課 |
| 計画編・資料編 | 〃 | 昭和55年産業連関表 | 神奈川県統計課 |
| 産業連関表利用の手引 | 統計課 | 統計からみた岐阜県経済と県民生活 | 岐阜県統計課 |
| 昭和58年度事業所経済調査報告書 | 〃 | 昭和57年度地域別にみた県民所得 | 三重県統計課 |
| 昭和59年消費者物価指数 | 〃 | 昭和57年度市町村民所得推計結果 | 徳島県統計課 |
| —いばらきの物価— | 〃 | 福岡県経済の構造 | 福岡県統計課 |
| 第7次漁業センサス結果報告書 | 〃 | 昭和57年度地域別県民所得 | 長崎県情報統計課 |
| 国民健康保険疾病分類統計表 | 医療福祉課 | 昭和57年度県民経済計算 | 〃 |
| 旅券発給の概要 | 総合県民室 | 昭和55年産業連関表 | 大分県統計課 |
| 昭和59年度版茨城県中小企業経営指標 | 経営助成課 | 経済の構造—昭和55年産業連関表結果報告書— | 宮崎県統計課 |
| 中小企業勤労者意識調査 | 労政課 | 昭和57年度市町村民所得 | 〃 |
| 第2次農業構造改善事業の実績 | 農政企画課 | | |

経 済 動 向

国 内 の 動 き

● 経常黒字最高、370億ドル

大蔵省が発表した59年度の国際収支状況(速報)によると、物やサービスの取引を示す経常収支は370億ドルの黒字で、これまでの最高だった58年度の242億ドルを上回り、史上最高の黒字幅となった。また投資や借款の流れを示す長期資本収支は544億ドルの赤字(流出超過)を記録、これも過去最高の水準となった。59年度の輸出は、年度後半に

● 減り続ける子供人口

わが国の子供の数は2,627万人(推計値)で前年比41万人減と依然減少を続け、総人口に占める割合は21.8%と最低記録を更新している。総務庁は4月1日現在の15歳未満人口の調査結果をまとめた。また今後の人口動向を占う上で

なって増勢がやや弱まってきたものの、全般的には米国向けを中心に好調で、前年度比11.3%増の1,678億ドルとなった。これに対し輸入は原油の不振が響き、1,222億ドルと同5.1%増の低い伸びにとどまった。この結果、貿易収支は456億ドルの黒字となった。これはこれまでの最高記録を111億ドル上回るものである。(日経 5月1日付)

基本資料となる零歳児人口は前年より2万人減って149万人となり、明治39年以来79年ぶりに150万人を割った。男女別の子供の数は男子1,348万人、女子1,280万人で、女100人に対して男105.3人の割合となっている。(日経 5月5日付)

県 内 の 動 き

■ 経 済

● 住宅建設上向き

59年度の県内の新設住宅着工戸数は2万6,759戸で前年度に比べて5.2%増えていることが、県土木部の発表で分かった。着工戸数が前年度を上回ったのは54年以来5年ぶりで、落ち込み続けた住宅建設にやっと回復のきざしが現れた。県南を中心に貸家建設が急増したのに加え、持ち家建設も持ち直したのが好調の要因。総数の内訳をみると、持

ち家1万4,049戸、貸家9,434戸、分譲住宅2,789戸、社員住宅427戸の順。特に著しい伸びを見せたのが貸家で、前年比15.7%増と過去10年間で最高の伸び率。地価の高値安定などから若い層を中心に貸家を選ぶ傾向が強まっており、これが住宅建設回復の下支えとなった。

(いはらき 5月2日付)

■ 産 業

● 水戸西流通センター卸団地建設

常磐自動車道の開通に対応し、県開発公社が水戸インターチェンジ付近に造成している水戸西流通センターの卸団地に21社が進出することになり、同卸団地設立準備会は、県に実施計画書を提出した。今後、中小企業事業団、県の計画診断を受け、7月までには協同組合が結成される見通しとなった。一方、卸団地以外の工場用地には現在、市内

の製造業者8社が進出を希望しており、残された用地については県、市が9月までに公募する。同センターは、37ヘクタールを県開発公社が整備し、卸売、運輸、倉庫各業者などを張り付ける複合的な流通団地である。

(いはらき 4月30日付)

■ その 他

● 北海道で「茨城フェアー」

5月29日から6月3日までの6日間、北海道札幌市で「茨城県農産物フェアー」が開かれる。これは3月16日からの大洗港と北海道を結ぶカーフェリー就航を契機に、「農畜産物など本県産の特産物を一堂に展示し、『科学万博』や県内観光地の紹介を行い、本県のイメージアップを図るとともに、道内での販路拡大の確立」を目指すもので、県と県経

済連がテコ入れしている一大イベント。白菜、キャベツ、なす、レタスなど道内入荷一位を占める本県だが、いわゆる系統ものの出荷体制が弱く、今回の茨城フェアーは、単なる物産展ではなく、本県のイメージアップが道内の消費者に強い印象を与えることは間違いない。

(常陽 5月6日付)